

金足農高、恒例の農産物販売会

にんにくせんべい、どうぞ

商品改良、五城目高と協力

秋田市の金足農業高校恒例が作った野菜や加工品などに農産物販売会が13日、同校 加え、五城目高校の生徒と協正間近くの「金農めぐり交流 力して商品改良を進めた五城目館」で始まった。今年は生徒 目町の「にんにくせんべい」



協力して改良した「にんにくせんべい」をPRする金足農高と五城目高の生徒

も販売。初日は両校の生徒が販売員を務め、せんべいをPRした。

にんにくせんべい（5枚入り、650円）は、五城目高生のアイデアを基に、五城目町の手焼きせんべい店「イトマン元気村」が昨年夏に商品化。今年4月下旬には、原料のコメを金足農高の生徒が育てたあきたこまち「金農米」に全て切り替えた。パッケージも、両校の生徒が考案したデザインを取り入れてリニューアルした。

13日は、パッケージの考案にも携わった五城目高生4人と金足農高生3人が協力してせんべいを販売した。

五城目高の幸野華音さん（3年）は「せんべいがおいしく見えるパッケージを自指し、色合いにこだわった」、工藤空羽さん（同）は「活動を通じ、他校と交流する貴重な機会が得られた」と話す。

酒米生産者を目指しているという金足農高の早川大空さん（2年）は「普段の実習やせんべいの販売を通じ、コメ

に関する多様な経験が積めて勉強になる」と話した。

せんべいのほかに、金足農高の生徒が生産・加工した卵や野菜、花の鉢、ジャムなども販売し、近隣住民らが買い求めている。

交流館での販売会は、この日を含めて9月下旬までに16回実施し、時季に合わせた新鮮な野菜や花、加工品を販売する。2回目以降は学校職員らが販売を担う。月内の販売予定日は16、20、27、30日。各日とも販売時間は午後1〜3時。

（嶋崎宏樹）